

受 験 番 号

国 語

(100 点 60 分)

(2026 年度 一般入学試験C)

注 意 事 項

- 1 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子の表紙の受験番号欄に受験番号を書いてください。
複数の受験番号がある場合、受験票に記載されているメイン受験番号を記入してください。
- 3 この問題冊子は表紙を除き、15 ページです。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、正しく記入してください。
 - ① 氏 名 欄 漢字氏名を記入してください。
 - ② 科 目 名 欄 「国語」と記入してください。
 - ③ 受験番号欄 受験票に記載されているメイン受験番号を記入し、その下のマーク欄に、正しくマークしてください。
- 6 受験番号が正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。
- 7 解答は、解答用紙の解答マーク欄にマークしてください。
例えば

20

 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の（例）のように **20 の解答マーク欄の③にマーク**してください。

(例)

	解 答 マ ー ク 欄											
20	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	-	⊕

解答マーク欄に複数のマークをすると、不正解になります。訂正するときは消しゴムできれいに消して、書き直してください。

- 8 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。

国

語

(解答番号

1

3

36

)

第1問 次の文章 甲・乙を読んで、後の問い（問1～問9）に答えなさい。

甲

〔注1〕フーコーの仕事において「まなざし」は、『臨床医学の誕生』の頃より重要な概念であるが、『監獄の誕生』（二九七五年）では、まなざしと権力そして主体の形成の関係を考察するという新たな展開をみせ、現代思想に大きな影響を与えた。

『監獄の誕生』でイチ・ヤク有名になったのは、十八、九世紀イギリスの功利主義の思想家ジェレミー・ベンサム（一七四八―一八三二）による『一望監視装置』という書物である。フーコーがとりあげるまで忘れられていたこの本の中でベンサムは、監獄における囚人のA¹的な監視とそのための監獄の設計・配置を論じている。

フーコーは、ベンサムが監獄だけでなく、学校や病院においても適用可能な、監視の諸問題を解決するための権力の技法を見いだしたと述べている。ベンサムの考案した監獄は環状であり、中心が監視のための塔であり、塔には大きな窓がうがたれていて、環の内面に向かって開いている。円周上の建物は独房に分けられ、各々の独房は建物の内側から外側までぶつとおしになっている。独房には窓が二つ。一つは内側に開かれて塔の窓と対向し、もう一つは外側に面して独房のすみまで光を入らせる。そうして中央の塔に監視者を一人置き各独房に狂人なり、病者なり、受刑者なり、労働者なり、生徒なりを一人ずつ閉じ込めるだけでよい。逆光の効果で、独房に閉じ込められたシルエットが光の中に浮きあがるのを塔からとらえることができる。「明るい光と監視者の視線」は囚人を閉じ込めておく土牢の「暗がり以上に捕捉力をもつもの」なのである。

1 パノプティコンと呼ばれるこの一望監視システムは、多数の人々が密集し、うごめき、騒がしかった幽閉施設の状態をカイ²ビ³でできる。「今や各人は、然るべき場所におかれ、独房内に閉じ込められ」独房の側面の壁のために同輩と接触できない。各人は中心部の監視者に正面からみられている。つまり中心部の可視性は押しつけられるが、両側面にいる同輩の様子をみることはできない。側面の不可視である。これにより、「群衆が解消されて、そのかわりに、区分された個々人の集まり」という効果が生じる。

中央の塔の監視室の人の動きや、そこに人がいるかどうかを、独房の側からはみえないような設計をベンサムは考案した。だから実際に塔に監視者がいなくてもよいのである。いつも中心部の可視性を押しつけられているという自覚を、閉じ込められている者にうえつけばよいのである。被拘留者は自分が現実凝視されているかどうかは決して知りえないが、自分が常に凝視されている見込みがあることを確実に承知するように、パノプティコンは考案されている。つまりそれは2 みる⁴みられるという一対の事実を切り離す機械仕掛けであり、円周上で人は完全にみられるが、決してみることができず、一方中央から人はいつさいをみるが、決してみられることはないのである。

パノプティコンは、人を閉じ込め監視する「権力を自動的なものにし、権力を没個人化する」。「その権力の本源は、或る人格のなかには存せず、身体・表面・光・視線などの慎重な配置のなかに」存するのである。

一方隔離され拘留された者は監視のまなざしをB⁵化する。彼は監視されていることを自覚し、監視する側が求める規律と訓練・懲罰を受け

入れ自省を試みるようになる。みられることで自己を意識し自己に向き合うことが可能になるのである。³不可視の権力にまなざされることで、（ ）が生成するのである。

一望監視装置はベンサムより以前に類似のものが試みられており、孤立させて見張る最初のモデルの一つは、一七五一年にパリの士官学校の寝室で実現されていた。しかしこの言葉を命名したのはベンサムであり、「一望監視装置」によってベンサムは十八世紀末以降の権力のあり方を示したのである。それは監獄・病院だけにとどまらず、十九世紀以降の人間の日常生活と権力の諸関係を規定する C 化可能なモデルと考えることができるのである。

不可視の権力のまなざしは生活のすみずみにまでおよび、張りめぐらされている。人をまなざすが、まなざされることのない権力のまなざしは個人の身体、動作、D 的な行為にまで行きわたるのである。権力を行使する者もこのまなざしから逃れることはできず、つかまえられてしまう。

だとすると、ここという権力はもはやそれを所有しているような個人、王のように生まれによってそれを行使する個人と E 的に同一視されることはなく、誰もその正式保持者になれない機械仕掛けのようなものである。それが権力を「自動的なもの」にするということの意味である。

(出口顯 ^{でぐちあきひろ}『ほんとうの構造主義 言語・権力・主体』による)

乙

かつてミシェル・フーコーは、(注2)ペストの流行に伴う監視の文脈において、「動くものは死をもたらし、しかも、動くものは殺される」と論じたことがあります。すなわち、人が動けば、ペストに感染して死んでしまうし、ペストで死なないにしても、動く者は⁴監視員に殺されるのです。

ペストに、オゾわれた都市における監視との区別をするため、フーコーの著書にはベンサムの「パノプティコン」が引き合いに出されています。パノプティコンとは、中心の塔から監視者が、その塔を円周状に取り巻く建物の独房の様子を見ることができ、その逆に監視者は塀により見られないという視線の不均衡をもたらし建築の設計です。ここでは、高い塔から監視者が実際に個々の独房の人を見ていることが問題ではなく、⁵見られている側に対する可視性による自己規律を促す権力構造が重要なのです。人間は、他者の視線を気にして生きているのです。

二〇二〇年から世界中で猛威をふるった新型コロナウイルス感染症の対策をきっかけに、感染者および一般の人々の行動の監視がどこまで許容されるかについて各国で議論になりました。国によって感染状況は異なるため、プライバシー保護のあり方を一概に比較することは困難です。それでもなお、プライバシーをある程度犠牲にしても感染者のツイ^dセキや行動制限を行った国がある一方で、日本ではプライバシーを最大限尊重し、感染者の位置情報をツイセキするような方法ではなく、感染者との接触を確認できるスマートフォンアプリを自主的な形で利用することを

奨励してきました。

現代の技術を用いれば、人の行動を監視することは簡単です。たとえば、韓国では、感染者のツイセキを徹底するため、クレジットカードの利用履歴、防犯カメラの映像、そしてスマートフォンの位置情報をマッピングさせて個人の行動を監視し、自治体では感染者の所在を公表してきました。感染症対策として一定の効果はあったようですが、個人のプライバシーの権利を犠牲にし、緊急時が平時の前例となりがねないか、事後のケシヨウが求められます。また、ハンガリーでは、二〇二〇年五月四日、ウイルス感染防止の緊急事態を理由に、政府が立憲的統制を解除するべく、個人データ保護法が保障する権利の執行を停止する政令を発出しました。

このような個人のプライバシー権を犠牲にしても、緊急時において感染症の対策を優先させるという選択肢があることは確かでしょう。しかし、プライバシーの権利の侵害は、定量化することが困難であり、気付いたときに事後に救済することができません。そのため、たとえ緊急時であっても基本権としてのプライバシー権の保護の水準を下げることなく、いかに効果的に感染症等の対策のために個人データを活用していくか、という発想が重要となります。

(宮下紘みやしたひろし『プライバシーという権利——個人情報なぜ守られるべきか』による)

(注1) フーコーフーコーミシェル・フーコー(一九二六～一九八四年)。フランスの哲学者・思想史家・文芸評論家。『狂気の歴史』『言葉と物』『監獄の誕生』などで知られる。

(注2) ペストペスト。ペスト菌による感染症。ヨーロッパで大流行が繰り返され、皮膚が黒くなって死ぬことから「黒死病」として恐れられてきた。

問1 傍線部a～eのカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号〕

1 5

- a イチヤク
- 1
- ① シュヤクばつてきに抜擢される。
② ヤツキになって否定する。
③ ヤクソクを守る。
④ ヤツカイな仕事を引き受ける。
⑤ 日本語にホンヤクする。

b
カイヒ

2

- ① 大臣をヒメンする。
② ヒヨウを捻出^{ねんしゅつ}する。
③ ヒロウ宴に招かれる。
④ 行政組織がヒダイ化する。
⑤ 安全な所にヒナンする。

c
オソわれた

3

- ① セシュウ議員がはびこる。
② シュウタイをさらす。
③ ホウシュウを受け取る。
④ チュウシュウの名月を楽しむ。
⑤ シュウシュウが見つからない。

d
ツイセキ

4

- ① セキヒン洗うがごとし。
② セキベツの情にかられる。
③ 会社のギョウセキが向上する。
④ ヒッセキが酷似する。
⑤ マッセキを汚す。

e
ケンシヨウ

5

- ① 当選ケンナイに留まる。
② 社会にコウケンする。
③ 容疑者の身柄をソウケンする。
④ シンケンに勝負する。
⑤ リョケンを申請する。

問2

空欄 A ～ E を補うのに最も適当な言葉を、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。(同じ番号を二度以上選んではいけません。)[解答番号 A 6、B 7、C 8、D 9、E 10]

- ① 内面 ② 日常 ③ 効率 ④ 相対 ⑤ 一般 ⑥ 実質

問3

傍線部1「パノプティコン」の特徴を説明したものととして**適当でないもの**を、次の①～⑥のうちから二つ選びなさい。(解答の順序は問いません。)[解答番号 11・12]

- ① 監視者は被拘留者の行動をいつでも監視することができる。
② 被拘留者は自分が常に凝視されていると意識せざるをえない。
③ 見る―見られるという関係の中に権力関係が存在している。
④ 被拘留者は四六時中、常に監視者によって見張られている。
⑤ 監視者は騒がしい被拘留者に懲罰を科す権力を握っている。
⑥ 被拘留者は他の被拘留者と接触できず、孤立状態に置かれる。

問4

傍線部2「みる／みられる」という一対の事実」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。[解答番号 13]

- ① 見る者と見られる者の関係は、通常は固定的であるということ
② 相手を見ることは、同時に相手に見られることであるということ
③ 見る者と見られる者の間に、不可視の権力関係があるということ
④ 見ることと見られることは、個人のなかで完結するということ
⑤ 見ることは、相手側からすれば見られることであるということ

問5

傍線部3「不可視の権力にまなざされることで、()が生成する」の空欄()を補うのに最も適当な語句を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。[解答番号 14]

- ① 個人 ② 凝視 ③ 隔離 ④ 懲罰 ⑤ 権力

問6 傍線部4「監視員」とありますが、これを甲の文章を借りて説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号 15〕

- ① 不可視の権力を体現して人々の行動を監視する者
 ② 中央の塔から見張るように人々の行動を監視する者
 ③ 権力を所有する個人として人々の行動を監視する者
 ④ 機械仕掛の権力を行使して人々の行動を監視する者
 ⑤ 群衆の中に身を隠して人々の行動を監視する者

問7 傍線部5「見られている側に対する可視性による自己規律を促す権力構造」について、甲の文章の内容をふまえて説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 16〕

- ① 独房に拘留された者は、自らの罪を自覚して、監視者が求める規律と訓練・懲罰を受け入れ、権力が自動的に作用するのを甘受するようになる。
 ② 独房に拘留された者は、監視者のまなざしが自分に向けられていることに耐えられないため、権力を自動的なものにし、没個人化しようとする。
 ③ 独房に拘留された者は、両側面にいる同輩の様子を見ることができないために、孤立化して自省を試みるようになり、結局は不可視の権力に屈してしまう。
 ④ 独房に拘留された者は、監視が機械仕掛で、実際には監視者がいないことを知りつつも、不可視の権力による規律と訓練・懲罰を受け入れてしまう。
 ⑤ 独房に拘留された者は、不可視の権力によって常に見られうる状態に置かれることで、自省を促され、みずから監獄の規則に従うようになる。

問 8 傍線部 6 「定量化」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 17〕

- ① 数値で表しにくい事柄を数値で表すこと
- ② 一定の限度を超えないように管理すること
- ③ 不法行為として処罰の対象とすること
- ④ 数値では表せないほどに極小化すること
- ⑤ バラバラであった尺度を標準化すること

問 9 文章甲・乙についてA～E五人の生徒が意見を述べ合いました。それらの意見のうち、文章甲または乙の内容と合致しないものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 18〕

- ① A 「文章甲は、パノプティコンの一望監視システムが、被拘留者に規律と訓練・懲罰を受け入れさせたという趣旨のことを述べているね。」
- ② B 「そこでは監視者と被拘留者との間における、見る―見られるという視線の不均衡が重要な働きをしていたことが指摘されている。」
- ③ C 「しかも、このパノプティコンの不可視の権力のまなざしは、社会生活全域に及んでいるというのを読むと、深く考えさせられるよ。」
- ④ D 「確かに。文章乙では、このようなまなざしが、ペストの流行でも、また新型コロナウイルス感染症でも存在していたことを明らかにしている。」
- ⑤ E 「視線の不均衡が、新型コロナウイルス感染症の対策における、プライバシーの侵害という形で現れうることを、文章乙は言いたいのだろうね。」

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問12）に答えなさい。

川端康成の恋愛小説を読んでいて、¹何かが欠けている、と思った。ずっと以前、私がまだ三十代の頃に読み続けていて、何かが欠けていると思いつながら、その何かが分からないままに過ぎて来た。

およそ日本の男性作家のなかで、川端康成ほど「女性」を描いた人はいない。また「女性の^a機微」に触れて描くことのできた人もいない。それでいて、何か欠けている、と思うのは、私が女性の読み手であるからにちがいない。ただ、その原因がどこにあるかが、最近、少しずつ見え来たような気がする。そのことから、^ま先ずはじめてみたい。

大雑把な印象だが、川端康成の小説にあつては、男と女の関係における男の、かなしさ、とでもいうべきものが皆無である。老人のかなしさはある。『眠れる美女』などに痛切に追求されているのだが、これは老いた男のかなしさで、「老いた」方に重点がかかっている。私がここで言いたい男の、かなしさではない。そして、それとは対照的に、女の、かなしさがあり余るほど表現される。女性の読者とはもとより、男性の読者も、川端文学に表現された女の、かなしさに酔い、恋愛小説の極めつけに接したような気分になる。もちろん、それはそれで決して不都合なことではないが、何か欠けている、と思う女性読者は、どうして男の、かなしさがなく、女の、かなしさだけがあるのだろうとそれが割りきれない。そして、この割りきれなさを突きつめて行くと、川端文学のなかの女の、かなしさは、男性によってつくられた女の、かなしさであつて、女本来の、かなしさではないのではないかということに気付かされる。

第一、川端文学に登場する女は、女性からいうと一人前ではない。川端康成が、女性を一人前の人間として見ていないか、どうかは、いまは述べないとしてもその作品のほとんどが一人前でない女性か、あるいは主人公の男性からは一段低い地位にいる人間として扱われる。

（イ）それは、『伊豆の踊り子』の踊り子からすでに出発する。あまりにも有名なこの作品を、^甲ここでくどくど説明する必要はないと思うが、作者十九歳のときの体験をもとにして、二十七歳のときに執筆されたものである。通常、どのような大作家でも大文豪でも、この時期に発表される作品は、完全な女性像、永遠の女性に対する憧憬が主題になる。^Aそれがどれほど、^乙錯誤におちいってようと、そのことを除けば、この憧憬が恋愛小説を生む基盤になる。ところが『伊豆の踊り子』には^Bそれがない。

主人公は（注1）旧制一高の学生で超エリートとして設定され、踊り子は社会の底辺の人間である。しかも少女である。ざっと読めば若い青年が美しい少女に恋をして、旅のあいだずっと離れられないでいた、という一篇の美しい物語であるが、仔細に読めば、青年の視点は、常に優位の立場から身分の卑しい、しかし美しい少女を眺めている。したがって²ここにある意識は美しいものへの（X）ではなく、美しいものへの（Y）である。

ただ結末の部分に、主人公が踊り子と別れて東京へ帰ることになって、孤児になった孫三人を連れた可哀そうな婆さんの同行を頼まれるところがある。踊り子とずつつきあつて来て浄化された青年の心境が婆さんを素直に受け入れ、また、踊り子と別れた涙を、側の年下の少年に見られ

るのも構わずに流す。この部分が美しく、これがなければ『伊豆の踊り子』はどれほど美的であつても好色の小説に終る他ないと思えるほどのものである。主人公は少年がすすめてくれる海苔巻のりまきを食べ、少年のマントにもぐりこんで眠る。

……私はどんなに親切にされても、それを大変自然に受け入れられるような美しい空虚な気持だった。明日の朝早く婆さんを上野駅へ連れて行つて水戸まで切符を買つてやるのも、至極あたりまえのことだと思つていた。何もかもが一つに融け合つて感じられた。

しかし、この「融け合つ」た感じは、その後の川端文学にはほとんど顔を出さず、上から下へ及ぼす感情で恋愛小説が終始したことは、日本文学にとつても、私たち女性読者にとつても、きわめて不幸なことだったと言わねばならない。

『伊豆の踊り子』についてと言うか、それ以上に乙人口に膾炙かいしやし、海外にも広く紹介され川端の代表作と言われる『雪国』の恋愛も、この上下関係が確実に踏まえられ、崩くずれされない小説である。女主人公駒子こまこは芸者であり、そのことが決定的な小説である。駒子が芸者であるからこそ、読者は駒子のひたむきな島村への気持を可哀そうには思つて読むが、島村の常に受け身の煮えきららない、狡い態度を、咎めなくて済むのである。そして駒子は、男と女のこの上下関係の故に、成就dしない恋を生きることによつて人びとに感動を与える。

(ロ) 川端康成の恋愛小説は、谷崎潤一郎や太宰治のそれと違つて、最初から、枠組として女性を対等に扱つたり、あがめたりする立場にはおかない。(ハ) 谷崎や太宰が、女性を対等に扱つたり、いや更に崇拜、憧憬の対象として書いているつもりでいて、実は上下の関係でしか捉えていないという恋愛小説における「矛盾」や「破綻」からはまぬかれている。その点では、奇妙な言いかただけでも、発想が非常に正確である。(ニ) こうした、自覚された上下関係の下で書かれる恋愛小説が、はたして恋愛小説かという問題はまた別である。この、問題は別である、という視点を除けば、川端康成の作品に現れる女性は、その女性の意識を、女性の読み手が読んでも非常に正確に捉えていると納得できるのである。ただ一個所を除いては、であるけれども。

そう、ただ一個所、と私は今回の読み直しを機会に、断言できると思う。読み落しがなければの話である。(中略) 一個所のそれは『美しさと哀しみと』のなかの、主人公たちの関係とは別の、いわばエピソードみたいな部分である。

前後をとつぱらつても通用する話なので説明抜きで引用する。

その子は夫の子にちがいないと、音子の母には思われた。たしかなことをしらべる方法はいくらでもあるが、女の方から何とか言つて来るのを待った。しかし来なかつた。半年あまり後に、女はその子をつれて結婚をしたと、音子の母は秘書に聞かせられた。秘書の口裏からも、その混血の女は夫の愛人だったとわかつた。夫は死に、時がたつにつれて、嫉妬も(注2)瞋恚も薄れて来た。女の子供を引き取つていいという氣を起すようになっていた。子連れて結婚したのなら、幼な子は女の夫を父として生い立つてゆくことだろう。夫の子が血のつなが

りのない男を父と信じて育つ。音子の母は貴重なものをうしなったようにさえ思われたりした。

夫が死んだあと、他の女に産ませた夫の子供が、別の男を父と信じて育つことについて、女の意識は、このように敏感ではない。まして、「貴重なものをうしなったよう」な気持になったりはしない。それは女が子供を産むことは男の血をつなぐことにおいてしか意味がないとする男の意識である。(ホ)、男が女の意識を長年にわたって、そのように調教して来た無理の表れである。しかし形而上的な問題ならともかく、女が子供を産むという、全く動物的な肉体とつながった意識は、たとい男性優位社会五千年の歴史のなかでも、容易には変えられない。これを、男の願いとしてではなく、女の願いとして書いたのは、明らかに川端康成の間違いである。

もちろん、これは男性の作家が、女性の主人公を造型することが不可能だと言っているのではない。(注3)フロベールが「ボヴァリー夫人は私だ」といって、あの名作を書いたように、そうした自身の思想を異性の登場人物に託して書きあげることが、それが異性であるが故に造型の見事さを獲得することがしばしばである。そうではなくて、私が言いたいのは、男性が女性に対する手前勝手を、気付かず押し通しているのが⁷我慢ならないということなのである。

(三枝和子『恋愛小説の陷穽』^{かんせい}による)

(注1) 旧制一高⇨旧制第一高等学校。現在の東京大学教養学部的前身。

(注2) 瞋恚⇨憎悪。

(注3) フロベール⇨一八二一～一八八〇年。フランスの小説家。代表作に『ボヴァリー夫人』『感情教育』などがある。

問1 傍線部a～eの漢字の読みが間違っているものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 19〕

- | | | |
|--------------|-------------|-----------|
| ① a 機微(きび) | ② b 錯誤(さくご) | ③ c 崩(くず) |
| ④ d 成就(せいじゅ) | ⑤ e 捉(とら) | |

問2 空欄(イ)～(ホ)を補う語として最も適当なものを、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。(同じ番号を二度以上選んではいけません。)[解答番号 イ⇨20、ロ⇨21、ハ⇨22、ニ⇨23、ホ⇨24]

- | | | | | | |
|---------|-------|--------|--------|--------|-------|
| ① したがって | ② しかし | ③ たとえば | ④ あるいは | ⑤ すなわち | ⑥ すると |
|---------|-------|--------|--------|--------|-------|

問3

傍線部1「何かが欠けている」とありますが、川端康成が女性を描くにあたって欠けていたものは何であると筆者は考えていますか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 25〕

- ① 女性の心情
- ② 男性の視線
- ③ 読者の立場
- ④ 女性の視点
- ⑤ 男性の心情

問4

傍線部甲「ぐぐぐぐぐぐぐ」、乙「人口に膾炙し」の意味として最も適当なものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。〔解答番号 甲 26、乙 27〕

甲「ぐぐぐぐぐぐ」

- ① わかりやすく、丁寧に
- ② くどくて、長ったらしく
- ③ ごたごたして、みっともなく
- ④ ぐぐぐ、なれなれしく
- ⑤ 大仰で、これみよがしに

乙「人口に膾炙し」

- ① 人々の話題にのぼって知れ渡り
- ② 人々が口をそろえて称賛し
- ③ 人々の記憶に残って忘れられず
- ④ 人々に人気があって親しまれ
- ⑤ 人々の間で盛んに議論され

問 5 傍線部 A・B の「それ」の指示内容として最も適当な組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号〕 28

- | | | |
|---|---------------|---------------|
| ① | A 青年期に発表された作品 | B 永遠の女性に対する憧憬 |
| ② | A 青年期に発表された作品 | B 永遠の女性に対する錯誤 |
| ③ | A 永遠の女性に対する憧憬 | B 永遠の女性に対する憧憬 |
| ④ | A 永遠の女性に対する憧憬 | B 永遠の女性に対する錯誤 |
| ⑤ | A 永遠の女性に対する憧憬 | B 恋愛小説を生む基盤 |

問 6 傍線部 2 「ここにある意識は美しいものへの（X）ではなく、美しいものへの（Y）である」の空欄（X）・（Y）を補うのに最も適当な言葉の組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号〕 29

- | | | |
|---|------|------|
| ① | X 憧憬 | Y 執着 |
| ② | X 憧憬 | Y 蔑視 |
| ③ | X 恋愛 | Y 同情 |
| ④ | X 恋愛 | Y 崇敬 |
| ⑤ | X 恋愛 | Y 情欲 |

問 7 傍線部 3 「咎めなくて済む」のは誰ですか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号〕 30

- | | |
|---|-------|
| ① | 川端康成 |
| ② | 読者 |
| ③ | 駒子 |
| ④ | 島村 |
| ⑤ | 本文の筆者 |

問 8 傍線部 4 「谷崎潤一郎」の小説を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 31〕

- ① 『斜陽』 ② 『金閣寺』 ③ 『明暗』 ④ 『山椒魚』 ⑤ 『細雪』

問 9 傍線部 5 「断言」の「断」と意味が同じものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 32〕

- ① 切断 ② 無断 ③ 決断 ④ 油断 ⑤ 断念

問 10 傍線部 6 「聞かせられ（聞かせられる）」について説明した次の文の空欄（Ⅰ・Ⅱ）を補うのに最も適當なものを、後群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。〔解答番号 Ⅰ 33、Ⅱ 34〕

「聞かせられる」は（Ⅰ）活用 of 動詞「聞かせる」 of 未然形「聞かせ」に、（Ⅱ） of 助動詞「られる」が付いたものだが、この「せら」が「さ」に変化して出来たと考えられる「聞かされる」の方が現在では一般的である。

- Ⅰ ① 五段 ② 上二段 ③ 下二段 ④ カ行変格 ⑤ サ行変格
Ⅱ ① 尊敬 ② 受身 ③ 可能 ④ 自発 ⑤ 完了

問 11 傍線部 7 「我慢ならない」とありますが、何が「我慢ならない」のですか。その説明として最も適當なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 35〕

- ① 女性が子供を産むという、全く動物的な肉体とつながった意識は容易には変えられないにもかかわらず、川端康成はいとも安易に変えようとしたこと
② 男性の作家が女性の主人公を女性らしく造型することはけっして不可能なことではないのに、川端康成の女性造型には不正確さがつきまとうっていったこと
③ 五千年にわたって男性優位社会が続いているという現実があるなかで、川端康成はこの現実を無視して、小説の中で女性を憧憬の対象と

して描いたこと

④ フロベールが女性の主人公を見事に造型したように、川端康成も理想的な女性像を造型できたにもかかわらず、社会の底辺にいる踊り子や芸者ばかり描いたこと

⑤ 女性が子供を産むことの意味を男性の血をつなぐことに見出すのは男性の発想でしかないのに、女性もまたその発想をするかのように川端康成が考えていたこと

問12

川端康成の小説について、筆者はどのように考えていますか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

〔解答番号 36〕

① 川端康成の恋愛小説は、女性の微妙な心理を巧みに描いているとはいえ、男女の関係が対等ではないため、一般的な恋愛小説とは趣を異にしている。

② 川端康成の恋愛小説は、女性のかなしさが描かれていても、男性のかなしさは描かれなかったために、欠如感をぬぐいきれず、恋愛小説としては二流である。

③ 川端康成の恋愛小説は、社会的に上位にいる男性と、下位の女性との純粋な恋愛を扱ったものが多く、その身分違いのために悲恋に終わるように作られている。

④ 川端康成の恋愛小説は、谷崎潤一郎や太宰治のように、理想的な女性が主人公ではなく、社会の底辺にいる女性が主人公であるため、国内外で人気が高い。

⑤ 川端康成の恋愛小説は、女性のかなしさが描かれているようでいて、実は男性によって作られた女のかなしさが描かれているため、矛盾や破綻がある。